

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 エネルギー価格上昇も輸入インフレ圧力は鈍化傾向 (05年7月輸入物価) 05年8月12日 (金)
 ～製品物価は下落傾向～ (No. UI-084)

第一生命経済研究所 経済調査部
 桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

輸出入物価 (U. S. Import and Export Price Indexes)

	輸出物価	輸入物価					資本財	自動車	消費財	実効ドル レート
		除石油	工業原料	石油						
04/07	+0.5	+0.4	+0.0	+1.1	+2.3	+0.0	+0.1	+0.0	▲0.7	
04/08	▲0.5	+1.5	+0.3	+5.0	+8.8	▲0.1	+0.2	▲0.1	+0.2	
04/09	+0.4	+0.5	+0.1	+1.5	+3.3	▲0.1	+0.2	+0.0	▲0.4	
04/10	+0.6	+1.6	▲0.1	+5.0	+11.1	▲0.2	+0.3	+0.1	▲1.4	
04/11	+0.3	▲0.3	+0.9	▲1.3	▲6.0	+0.1	+0.1	+0.2	▲2.6	
04/12	+0.1	▲1.4	+0.4	▲5.1	▲11.4	+0.3	+0.1	+0.3	▲1.1	
05/01	+0.8	+0.6	+0.3	+1.2	+2.2	+0.3	+0.0	+0.6	+0.6	
05/02	+0.1	+0.9	+0.1	+2.2	+5.1	▲0.1	+0.0	+0.5	+0.2	
05/03	+0.7	+2.2	+0.3	+7.0	+13.4	▲0.1	+0.0	▲0.2	▲0.6	
05/04	+0.5	+0.9	+0.4	+2.8	+3.6	+0.2	+0.1	▲0.1	+0.9	
05/05	▲0.2	▲1.0	▲0.2	▲3.3	▲5.4	▲0.1	+0.0	+0.1	+0.5	
05/06	▲0.1	+1.0	▲0.2	+3.6	+7.9	▲0.1	+0.0	+0.0	+1.1	
05/07	+0.1	+1.1	▲0.1	+3.8	+6.6	▲0.7	+0.0	▲0.2	+0.5	

(出所) 労働省 Department of Labor)

(注) 未季調、前月比、%。実効レートはFRB算出ベース。

*1 Automotive Vehicles, Parts & Engines

*2 Consumer Goods, excluding Automotives

輸入物価 (除く石油) は前月比▲0.1%

05年7月の輸入物価 (最終財) は、石油・同製品が前月比+6.6%上昇したため同+1.1% (前年同月比+7.7%) と2ヵ月連続で高い伸びとなり、市場予想の同+0.6%を上回った。一方、輸出物価は同+0.1%と3ヵ月ぶりに上昇した。

変動の大きい石油を除いた輸入物価 (最終財) は、前月比▲0.1% (前年同月比+2.2%) と3ヵ月連続で下落した。石油を除く工業原料が天然ガスの上昇によって同+0.7%と3ヵ月ぶりに上昇に転じた。一方、消費財 (除く自動車) は、靴が上昇したものの、家具等の下落によって同▲0.2%となった。さらに、資本財は、コンピューター、電気機械・設備、通信機器の下落によって同▲0.7%と低下した。加えて、米国内での競争激化を背景に自動車の輸入価格は横這いとどまった。

原油価格が1バレル=60ドル台で推移したものの、ドル実効レートが金利格差拡大観測から上昇しており、輸入物価押し上げ圧力は小幅低下している。トレンドを示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも石油が+38.4%とプラス幅が縮小したため、輸入物価は+5.6%とプラス幅が縮小した。また、変動の大きい石油を除いた輸入物価 (最終財) は0.0%と横這いとどまった。

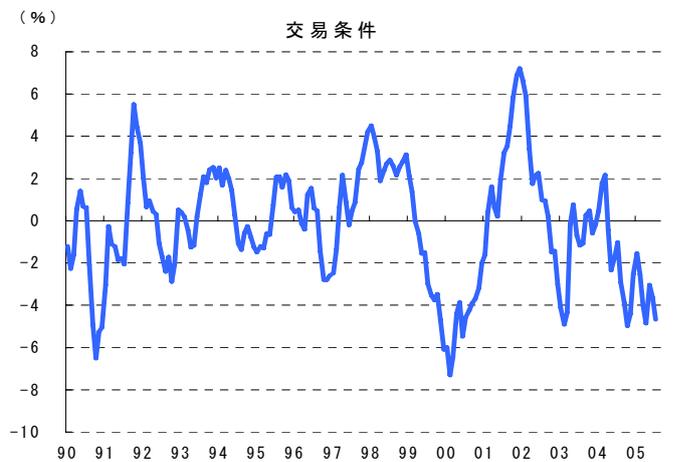
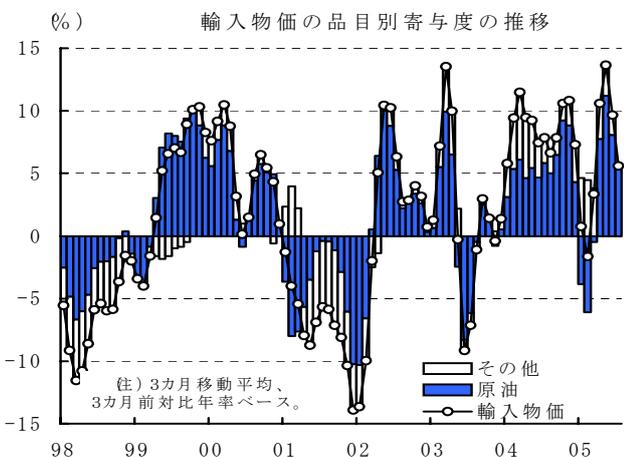
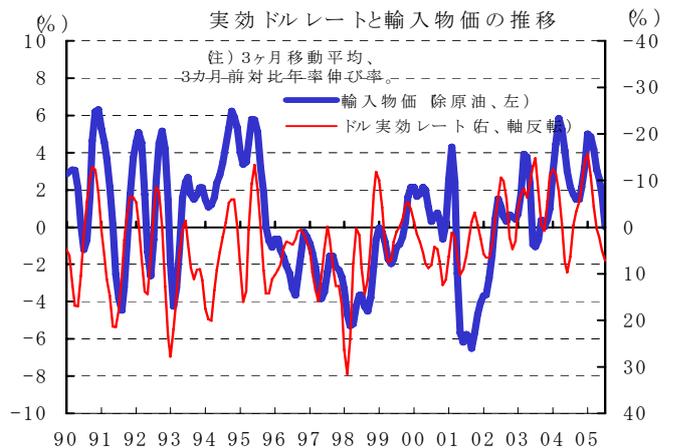
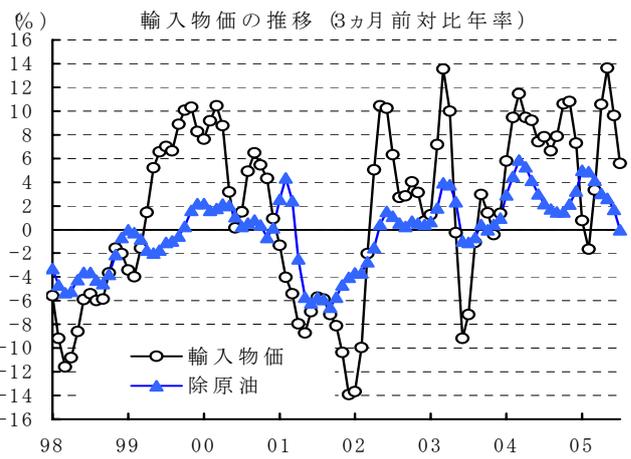
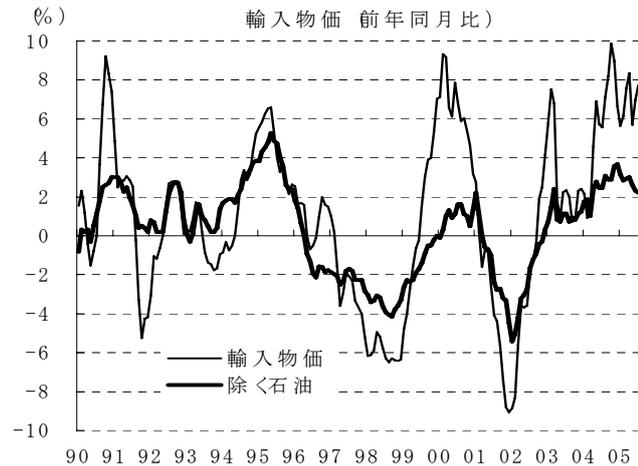
輸入物価は、米州が上昇した一方、アジアの下落が続いた

地域別の輸入物価をみると、米州からの輸入物価が上昇した。メキシコが前月比+1.5% (前年同月比+9.6%)、カナダが同+1.1% (同+8.0%)、ラテンアメリカが同+1.8% (同+15.9%) と高い伸びとなった。一方、EUが同▲0.3% (同+4.8%) に鈍化した。アジアからの輸入物価をみると、通貨元がドルペッグされている中国は同▲0.2% (同▲1.2%) と下落し、日本が同▲0.1% (同+0.4%)、NIE Sが同▲0.8% (同▲1.7%)、ASEANが同▲0.5% (同▲0.9%) とハイテク関連製品の輸入が多いアジアからの輸入物価も抑制されている。

交易条件（輸出物価／輸入物価）は、輸出物価が前年同月比+2.7%とプラス幅が縮小し、輸入物価が同+7.7%と伸びが高まったことから、マイナス幅が拡大しており、マクロでみた米国の対外収益性は再び悪化した。

今後も、輸入物価の上昇圧力緩和が見込まれる

今後の輸入物価を取巻く環境については、世界的な景気の拡大ペース加速に伴う原油の供給不足懸念や、過剰な流動性を背景にエネルギー価格の上昇が持続する可能性が高い。しかし一方で、金利差拡大によってドル実効レートが下げ止まり、今後上昇が見込まれることから、輸入物価の上昇圧力は緩やかに緩和していくとみられる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であると限りません。